



Shibuya Culture Project

現代の大学生の渋谷に対するイメージ
— 早稲田大学人間科学部の学生の事例より —

原 知章

私は橋本さんと藤田さんと共に渋谷カルチャープロジェクトに取り組むにあたって、現代（2025 年時点）の大学生が渋谷についてどんなイメージを抱いているのかを探ることにした。以下の学生による自分語りは、私がゼミの学生たちと対話し、大人数講義科目の履修学生のみなさんを対象としたアンケート調査を行なった結果にもとづいて描いた現代の大学生の「平均像」である。

私は 2004 年生まれです。私がはじめて渋谷に遊びに行ったのは大学生になってからです。高校生の頃はコロナ禍の影響もあって、あまり街に遊びに行ったりしませんでした。

渋谷というと「スクランブル交差点」「渋谷駅はダンジョン」「渋谷駅の周辺はいつも工事をしていて、新しい施設が次々出来ている」といったイメージが強いです¹。

このゼミに入るまでは、渋谷が「音楽の街」といったイメージはありませんでした。「渋谷系」という言葉も聞いたことがなかったですし、「渋谷系」の代表的なアーティストとされるピチカート・ファイヴやフリッパーズ・ギターの存在も知りませんでした。先生が、渋谷の街や橋本徹さんに関わりの深いアーティストとして、Nujabes のことも紹介してくれましたが、やはり知りませんでした²。私の両親（50 代）は音楽が好きなので、若い頃の話

¹ このような学生の渋谷に対するイメージは、「二一世紀初頭の渋谷の街の表に見える発展」（吉見 2024: 36）と見事に重なる。

² このコラムは、2025 年 4 月時点での大学生のイメージを描いたものと考えていただきたい。Nujabes は、2025 年 5 月 22 日に開催された「MUSIC AWARDS JAPAN 2025」の「最優秀インストゥルメンタル楽曲賞」を受賞したことから（楽曲名「aruarian dance」）、

聞いてみたのですが、当時は Mr.Children や DREAMS COME TRUE の曲をよく聴いていたみたいです（「渋谷系」というと、「今夜はブギー・バック」という曲を思い出すと言っていました）。

2010 年代以前の渋谷については、ほとんど知識がありません。かつての渋谷の街というのは、ある意味では、自分にとって「異文化」といえるかもしれません。

ちなみに私は音楽は好きで、通学中などに配信サービスでよく聴いているのですが、ジャンルは J-POP や K-POP が中心です。これまで CD やレコードを買ったことはないですし、クラブやライブハウスに行ったこともありません（フェスには一度だけ行ったことがあります）。

つづく

参考文献

吉見俊哉, 2024, 『東京裏返し——都心・再開発編』 集英社.

その後は若い世代の間での知名度・認知度があがったと考えられる。